



「わっせ」は当協議会の愛称です。
人権ってなに？の「What」と人権の輪が「わっせ」
広がってほしい願いが込められています。

箕面市人権啓発推進協議会

ニュースレターVOL14

2015年6月発行

〒562-0014 大阪府箕面市萱野1-19-4 箕面市萱野中央人権文化センター内

TEL/072-722-2470 FAX/072-734-6509

E-mail jinken-jimu-minoh@silk.ocn.ne.jp

<http://wat-minoh.sakura.ne.jp/>

2015年(平成27年)度
総会を終えて

～第二次世界大戦終結70年～

「平和と人権・人を大切に」



箕面市人権啓発推進協議会
会長 仲野 公

山の緑も日一日と深まり、初夏の風も爽やかな5月23日の土曜日、箕面市萱野中央人権文化センター「らいとぴあ 21」において開催した2015年度の定期総会は31人の役員・常任幹事の出席と9人の委任状のもと提案された報告事項及び活動方針などの諸議案は全て承認、可決されました。

今年の総会は特定の民族や国籍の外国人に対する差別的発言(ヘイトスピーチ)が社会的関心を集めている中、昨年11月に市立中央生涯学習センター内の掲示板に「チョウセンクサイ」といった差別落書きが市民により発見されたこと、そして今年1月に市役所本館1階待合ロビーのソファに「金くれサル カタワはくるな」といった差別落書きが発見されたことは、重大な人権侵害事案であると受け止め、人権協と在日韓国・朝鮮人保護者会(トッキの会)と共同で市長と教育長に適切な対応を求める要請をし、今も継続して協議を続けていること等の報告をはじめ、昨年度まで(特活)暮らしづくりネットワーク北芝が事務局を担っていた「みのお市民人権フォーラム」は今年で第30回という節目の年を迎えるにあたって人権協が事務局機能を受託することになったこと、それに伴い事務局体制も強化充実すること、また、今年は先の世界大戦が終結して70年という節目の年でもあるので50から70文字以内に纏める「ヒューマンメッセージ(いのちのことば)大賞」事業を人権フォーラムに合わせて実施すること、また、震災抜きに人権は語れないと支援活動にとりくんできた東日本大震災について、復興・復旧の現状や被災者の思いを人権の視点で見分し、体感するため今年も被災地を訪問すること、その他、市行政をはじめ企業、学校、関係団体や市民の取組まれる人権研修に講師の派遣やコーディネーターを行うなど人権協が人権の市民応援団として活動することなどの方針を承認、可決されました。

総会に引き続いての人権啓発講演会は交通事故で右手、右足を失くされた障害者市民問題啓発研究部会長の大道広子さんに講師をお願いし「ありのままを見てほしい」と題して前田事務局長との掛け合いで、これまで生きてこられた体験や思いをお話いただきました。大道さんは、高校生の時に交通事故に遭われたとのことですが、家政婦を夢見していた、いわゆる「五体満足」の少女がある日突然身体障害者となり精神的にも先が見えない状態であったが家族や友人の支えにより、リハビリ、復学、運転免許取得、身体障害者国体で水泳の金メダル獲得等々人の3倍頑張ることができた。(某氏には頑張らなくて良いと言われた)しかし、子どもの出生について彼の母親が子育てを心配し反対され、結果的には彼とも別れたが、授かった命を大切に自分の信念を通し出産し愛子と名付けた話、「海・温泉物語」と名付け毎年娘と海水浴と温泉に行き、娘と一緒に他人の視線を体感している話、その他

障害者と共に働き貴重な体験をした話などなど明るく気さくに話され、人を大事にすることが大切であると締めくくられました。自分の生き様について信念をもって話されたことに感銘し、人はそれぞれの環境や立場の違いはあるが親子、家族、人間関係が大切であることが良く分り、正に人権を尊重する社会が必要だと考えさせられました。

複雑多様化する現代社会におきまして、自動虐待、DV、ストーカーによる殺傷事件など尊い人命を奪う人権侵害の事件が発生している今日、私たちは何をすべきなのか人権の視点から考える良い機会となった総会、講演であったかと思えます。

追伸、講演会の後人権協の仲間でご苦労さん会をしました。やっぱり大道さんは日本酒が強いし良く似合う。



今年も「東日本大震災を記憶し、語り続けるために」 被災地義援行動をみなさんに呼びかけ実施します。

人権協事務局長
ヒューマンネットワーク 21 代表 前田 功

箕面市人権啓発推進協議会の定期総会が去る5月 23 日に行われ、今年度の活動方針案が決定されました。

人権協の活動の柱は大きく7つの分野ですが、その中でも今年で3回目になる、「東日本大震災を記憶し、語り続けるために」被災地義援行動を行うことが決定されました。

私たちは 20 年前の「阪神・淡路大震災」を経験しました。多くの問題は今なおありますが、全国の皆さんの支援等により立ち上がり、復興を果たしてきたと思えます。

一昨年、昨年と人権協の呼びかけで多くの人権協関係者が東北の被災地におもむき、見ること・聞くこと・体感することを行ってきました。

そしてその復興の現状や大震災の爪痕をしっかりと受け止め、特に高齢者や、障がい者市民の現状、子どもたちの心に受けたメンタルな問題などをお聞きしてきました。

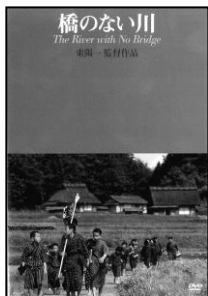
東日本大震災・大津波からの復興を支援すべく、各種取り組みやイベントでのカンパ活動をはじめ、人権フォーラム等で被災者をお招きしたシンポジウム、被災者の声を聞くための学習会、箕面ユネスコ協会主催の「気仙沼の食材とお酒を楽しむ会」への協力など、箕面市内でさまざまな取り組みをしていますが、まだまだ東北現地に行っていない人も多くいると思えます。

今年も10月に東北に行くための準備を今から行っていき、きちんと被災状況と向き合っ、見ること・聞くこと・体感することをしていきたいと思えます。

広く人権協に関わっておられる皆様方、「東日本大震災義援行動」に参加してみませんか！



橋のない川



住井すゑの大ベストセラー小説をもとに、真の人間の豊かさとは何かを問いながら、敢然と差別に抗して立ち上がり、水平社結成に至るまでの人々の闘いを描く。

(1992 年作品/139 分)

木田さんと原発、そして日本



東日本大震災・福島第一原発事故により、これまでの生活を奪われた木田節子さん。分断されていく故郷を思い、この苦しみを福島で終わりにさせようと声を上げ続ける彼女の姿に、同時代を生きる“私たち”は何を思い、どう生きるのか？

(2013 年作品/64 分)



ヒューマンカルチャー・あれこれ



映画情報

『何を怖れる』 フェミニズムを生きる女たち



70年代初頭にウーマンリブが始まったころ、映画の中の彼女たちはまだ、20代、30代でした。映画は、フェミニストたちの証言でつづるドキュメンタリーです。出演は、池田恵理子、井上輝子、上野千鶴子、加納実紀代、駒沢美喜、桜井陽子、高里鈴代、高橋ますみ、滝石典子、田中喜美子、田中美津、中西豊子、樋口恵子、米津知子の14名です。

111分のドキュメンタリーである。

それも日本のフェミニズムを確かに創って来た女たちのオンパレードなので、監督も言ってたけれど、頭の中が情報と思いが交差して感想はなかなかまとまらない。

その中で私が引っかけたことを書いていこうと思う。

まず、14人の人選は？上野千鶴子推薦によるらしい。トークショーで、関西の人が少なく、あの人が入ってないなあと思ったがと質問があった。一人に3,4時間のインタビューをしたが、使えるのは7,8分でと松井監督は言っていた。たくさんの取り上げられなかった女がいたことは事実でしょう。でも私は良い人選だったと思う。

女性投稿誌の草分け「わいふ」50周年イベントで上映した「わいふの50年」が、ものすごく分かりやすいとビックリされ好評だった。そしてわいふの2代目編集長、田中喜美子から「自分たちフェミニストがしてきたことを記録に残したいから撮って」と言われたという。100年後には確かに歴史になっているでしょうから。

桜井陽子の話はすごかった！！

家事労働はハーフハーフで、他の男と比べるとではなく私と比べてどうか？でなければダメだとか、夫が子どもを連れて単身赴任したら、自分のもんすごく働けると実感したとか。世の中の女がいかに夫、子どもなどの都合に合わせ隙間で生きているかということ！！

トークショーには京都の松香堂の小西豊子さん(81歳)が来て下さり、「ウィメンズ・ブック・ストア」の成り立ちを熱く語ってくださった。その中で、「私、本屋ですけど、アマゾンで本買ってます」と話され、これからはネットの時代で「WAN」というWeb本屋について取り組んでいることを教えてくださいました。すごい！！

タイトルは「何を怖れる」だけれど「出てくる人は何も怖れてない人ばかりで、何も怖れることはないのよ」と監督がインタビュー中にひらめいたからだそうです。また、ちゃんとみんな繋がっているのが素敵と言ってました。

私は登場人物の中に、普通の会社で生きた人が一人もいないことに、フェミニストである難しさを感じて帰ってきました。
谷垣文貴子 記

被災障害者支援 ・ゆめ風基金20年記念 ゆめ風であいましょう



日時 2015年8月16日(日)
15:00 開場 17:00 開演
会場 大阪中之島中央公会堂
出演 坂田明(サクソ)
林英哲(和太鼓)
小室等(ボーカル・ギター)
参加協力(人権協特別割引)
大人前売り 2,000円

特別割引: 大人前売り券のお申込み、お問い合わせは人権協事務局までお願いします。

編集後記

記録的な暑さが続いた5月が終わって6月に入るなり、平年より数日早い梅雨入り発表がありました。ミニバイク通勤の身には若干つらい季節の到来です。さて、今年は戦後70年、箕面市が非核平和都市宣言をして30年となる節目の年。総会で決定した活動方針、事業計画に基づきしっかりと取り組みを進めていきたいと思えます。(M)